

令和3年度の学校評価

本年度の重点目標	① 安全で安心できる学校づくり ② 個に応じた教育活動の充実 ③ 学校からの発信力の強化		
項目(担当)	重点目標	具体的な方策	評価結果と課題
小学部	明るい人間関係の育成や自立に向け、学校生活や日常生活を意欲的、主体的に過ごすことができるよう、個に応じた支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や相手を思いやる気持ちなど、円滑な人間関係やコミュニケーション能力の育成を、学校生活全般をとおして支援する。 ・児童一人一人の課題や目標について、保護者や職員間で共通理解を図り、身近処理能力や学習面の向上に向け、長期的視点で支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を営む上での基礎的な能力である挨拶やお礼などの必要性を、学校生活全般をとおしてその都度言葉かけをすることで、自発的に行える場面が増えた。また、みんなのために積極的に活動した児童に対して、しっかりと評価をすることで、自信をもって学校生活を送る場面が増えた。 ・新型コロナウイルス感染症対策で活動が制限される中、保護者とは懇談会や日々の連絡帳をとおして具体的な目標についての共通理解をはかり、職員間では学年会等で個別の課題を検討し、効果的な支援方法について共通理解をはかることで、児童の意欲や集中力が高まり、達成感や成就感を味わいながら次の取組へと広げていくことができた。今後は自立活動でのより個に応じた支援を充実させたい。
中学部	将来の社会自立に向けて、個々のニーズに応じた支援に心がけるとともに、生活力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育アセスメントを基に生徒の実態を的確に把握し、個々のニーズに応じた支援を実施する。 ・個別の教育支援計画等を基に、保護者と支援方法について共通理解を図り、個々の生活力の向上を目指す支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態把握をしっかりと行い、学年全体で情報共有を図りながら、個に応じた支援を実践することができた。 ・個別の教育支援計画を基に、自立活動や教育活動全般をとおして、身に付けたい力について支援や指導をしていきながら、生活力の向上に取り組むことができた。
高等部	卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力、生活する力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別の指導などをとおして卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。 ・生徒一人一人に対して的確なアセスメントを実施したり、生徒の課題や支援方法を学校、関係諸機関、家庭とで共有したりすることで、実態や特性に応じた生徒指導・進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初の予定どおりの実施ができない行事等があったが、リモートでの実施など情報機器の効果的な活用や、校内で教育目標を達成できるような内容の工夫により、生徒一人一人に応じたねらいを達成することができた。 ・生徒の支援に向けて、関係する職員間でこまめに情報を共有したり、支援方法を検討したり、また積極的にスクールカウンセラーや地域の相談支援との連携を図ったりすることで、校内の支援体制を強化することができた。また、校内研究をとおして職員のアセスメント力を高めることができた。
訪問教育	職員間での共通理解を図るとともに、校内及び関係機関との連携し、あらゆる支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関との連携を図り、健康状態等の把握に努める。 ・訪問生と通学生、また訪問生同士の情報を交換できる機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業を始める前に、保護者に体調や生活について話を伺った。また、訪問PTや訪問入浴の様子を見学したり、訪問ヘルパーと体調面に関しての相談をしたりして、日々の指導に生かすことができた。 ・集団学習を年5回計画した。新型コロナウイルス感染症対策のため1度の実施となったが、通学生と直接触れあうことができ、貴重な学習経験となった。また、オンラインでの学年交流、訪問生同士の交流も実施した。 ・夏休みに、訪問生同士の情報交換の場として、施設見学を実施した。
総務	行政文書ファイル管理簿を運用し、改善を図り、確立し、職員の共通理解の定着をする。 行事予定や学校	<ul style="list-style-type: none"> ・行政文書ファイル基準表に基づいて、変更整理した校内の文書ファイルについて再確認し、より実態に合ったものに改善する。 ・主担当の職員を中心に、依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌毎に校内文書ファイルの目次表、背表紙、ファイルの太さなどの確認を2回行い来年度の文書ファイルの準備を進められた。年度途中でのファイルの厚さの変更要望にも対応できた。 ・余裕をもってできるように、準備の言葉かけを早めにし

	だよりの変更訂正に適切に対応する。	する部や学年等に早めに提示できるように準備し、余裕をもって進められるように配慮する。	たり、行事等、変更がないか関係分掌や学部の主任と報告、連絡、相談を心掛けたりできた。行事予定等の作成について、係の負担の軽減になるよう校内 LAN を利用して作成できる体制を定着していく。
教 務	一人一人の障害特性や発達段階に応じた指導・支援の充実を図る。 新学習指導要領の実施（小・中学部）や対応の検討を図る（高等部）。	<ul style="list-style-type: none"> 適切なアセスメントを行って障害特性を把握した上で、個に応じた目標や課題を設定する。効果的な指導・支援方法を選定し、実践を重ねる。 各教科や合わせた指導の年間指導計画の各単元題材に、新学習指導要領に示された育成を目指す3観点における目標を明記した上で指導を展開する。また、新学習指導要領に関して教科領域会などをとおして、内容の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントの具体的な方法を各指導者に伝えることができたが、さらに職員一人一人がよりの確な視点を持ちアセスメントを行い、それを分析し深めることで児童生徒の発達支援へつなげていけるよう、積極的に働きかけていきたい。適切に実態把握ができるように、担任、授業担当者、学年職員とで、学年会やケース会を中心に情報共有し、連携を図って児童生徒の成長につなげることができた。 年間指導計画立案の際は、学習指導要領の内容を確認した上で、観点別の目標を明記することができ、学習指導要領をその都度読み返すことで、内容周知の一助となった。教科領域会では、他学年、他学部の職員と意見を交わし、ポイントやキーワードを絞りながら、新学習指導要領の内容を深めることができた。
自立活動	自立活動の指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動に関する研修を実施したり、自立活動通信を発行し、自立活動に関する各部の取組を紹介したりすることで、職員の専門性を高められるようにする。 自立活動室を整理したり、教材教具を使いやすいよう整備したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修は研修部の年間計画に入っていなかったため今年度は未実施。来年度から実施を検討中。自立活動通信やメソフィアなどを活用し、各学年の実践を紹介したり新しい教材・教具を紹介したりした。指導の参考になった、新しい教材・教具をさっそく使った等という声が多く聞こえ、指導の一助になったと感じた。今後は教材ライブラリのデータの整理も進め、必要な情報を検索しやすいシステムを作っていきたい。 自立活動室のレイアウトを変更した。これまで靴を脱いで入らなくてはいけなかったが、エアレックスマットの位置を変更したことで、靴を脱がずすぐに必要な物を手に取れるようにした。教材・教具を整理したり、カテゴリライズして収納したりすることで教材・教具を探しやすくなった。見やすくなったと好評である。
教育支援	地域の小中学校及び高等学校のニーズに応じた相談支援、関係機関との連携をとおして地域支援機能の促進及び充実に努める。 校内支援の体制を整え、支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各校への相談活動や研修等で、児童生徒への具体的な支援方法を共に検討し、特別支援教育への理解とコーディネーターの資質向上の支援を行う。 必要に応じて支援会議を開催し、関係機関との連携を図るとともに、支援体制を整えてチームで支援を行えるようにする。 支援会議の実施やスクールカウンセラー等の活用について情報提供し、より児童生徒の課題に応じて実施・活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校のニーズに応じ、児童生徒への学習面、生活面での支援方法、自立活動の指導内容、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成や活用などについて、事前資料をもとに準備をし、相談活動を実施した。今後も、分かりやすく具体的な支援方法を検討し、伝えていきたい。 支援会議の流れや方法について、資料を作成して校内で情報共有をした。関係機関との連携を図り、よりチームで支援を行う意識を高めていきたい。 定期的にスクールカウンセラーの活用をし、児童生徒の課題について専門的な立場から助言を受けた。活用を希望する児童生徒、職員、保護者とのコーディネートがスムーズに行っていくことが今後の課題である。
研 修	時代のニーズに応じた研修方法と研修機会の充実を図る。また、全校研究、校内研修をとおして教員の専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 幾つかの場所に分かれて同時に実施できる研修方法を実施する。 校外研修だけでなく、eラーニング研修など校内で受けられる研修について推進する。 全校研究で自立活動の時間における指導についての実践に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報教育部に協力していただきながら、Zoom や Teams などを活用して全体研修を実施することができた。接続の環境など課題もあるが、今後も研修内容によっては活用していきたい。 校外研修や e ラーニング研修などメソフィアでの掲示のみになってしまった。どのような方法で全職員に推進していくことができるのか今後の課題である。 「時間における自立活動の指導と充実」をテーマに研究に取り組んだ。教務部や自立活動部と連携し、自立活動の指導内容を適切に設定できるよう職員の専門性を高めていくことが今後の課題である。

<p>図 書</p>	<p>児童生徒が、本を楽しむきっかけを見つけられるよう支援できる図書室を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室行事を通じて様々な本に出合えるよう、児童生徒の興味関心と関連付けた活動を計画する。 ・本の紹介・展示を行う。 ・図書室に限らず、様々な場面で本と親しめるような教材や情報の提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館行事では、廊下を利用した読書スタンプラリー、キャラクターパネルの設置、パワーポイントの充実、読書週間のテーマとコラボした給食メニューの提供、本の福袋による学級への本の貸し出しなどにより、図書館の外でも児童生徒が楽しみながら、本と出会うことができたと好評であった。 ・今後は、余暇や学習でより積極的に蔵書を利用する習慣作りを支援できるとよいと考える。その方法として、図書室の蔵書について、児童生徒だけでなく、より多くの職員に知ってもらえるような工夫をすることが課題である。
<p>情報教育</p>	<p>職員の I C T 機器活用を進める。</p> <p>本校の情報発信を積極的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom やタブレット機器等の利用についての研修を計画的に実施し、授業等への活用を促す。 ・学校ホームページの更新システムを改変し、より最新の情報を外部に発信できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況に鑑み人が集まる学習補償に、Zoom をはじめオンライン学習を提供でき、活用を浸透させることもできた。また、老朽化したサーバー更新の手続きや整備、長寿命化工事に伴う備品消耗品の整理を積極的に行い、使いやすくフレッシュな環境を整えた。 ・端末の更新等により、課題に位置付けた新しいページの作成は完成しなかったものの、CMS 等情報の獲得やソフトの更新など着実に準備を進めることができた。
<p>生徒指導</p>	<p>安全指導の充実を進める。</p> <p>いじめの未然防止に係る取組の充実を図る。</p> <p>全職員が共通意識をもって児童生徒に支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や減災に対する意識を高めるために、啓発活動や避難訓練の内容を充実する。 ・学校生活全般において、他人を思いやる気持ちをもてるようにする。いじめとはどのようなものかを、しっかりと児童生徒に伝える。 ・児童生徒の情報を学年、部、必要であれば学校全体で情報共有をしっかりと行い、一人一人にあった支援ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の災害を想定した避難訓練を実施することで、少しずつマニュアルの見直しが進んだ。防災減災グッズがまだまだ不足しているかと思うので、何が必要かを検討しながら購入を依頼していきたい。 ・今のところ本校では、いじめは認知されていない。今年度も全校集会で人権についての講話を校長に実施していただき、HR 等において再確認などを行った。いじめ、人権は大切なことなので今後も継続して行っていきたい。 ・関係職員に対しての報告や連絡、情報共有などがしっかりと行われるようになってきたが、情報共有などがされていないこともあるので、継続して情報共有をしっかりと実施するように伝えていきたい。
<p>保 健</p>	<p>感染症予防対策を進める。</p> <p>緊急時、迅速に対応できるようにする。</p> <p>保健マニュアルの整備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやマスクの着用、換気等の呼びかけをする。 ・校内の感染症マニュアルを職員に周知する。 ・各教室に緊急対応時の流れを記載した掲示物を設置するとともに、緊急対応グッズを配置する。 ・職員研修を実施し、迅速に対応できる体制づくりをする。 ・複数ある保健関係のマニュアルを 1 冊のファイルにまとめ、職員用のパソコンからも検索しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用や手洗いなど基本的な感染症対策については、ほとんどの職員が意識していた。しかし、鼻出しマスクや換気を忘れ、生徒同士の距離など徹底ができていないところもあった。引き続き感染症の手引きの周知と注意喚起をしていきたい。 ・緊急対応の流れが一目で分かるように、掲示物を作り直した。また、学期ごとに AED 訓練を設定して、職員が迅速に行動に移せるように体制づくりをした。今年度の訓練は、授業中を想定して取り組む学年が多かった。今後は、休憩中や児童生徒の移動中など授業以外の場面を想定した訓練も取り入れながら、状況に応じて迅速な対応ができるようにしていきたい。 ・保健関係の書類を使用しやすいうように書式の変更を行った。また、保健や給食のマニュアルについても整理したため、次年度はフォルダ等の保存箇所が周知できるようにしていきたい。
<p>進路指導</p>	<p>児童生徒や保護者が、卒業後の進路選択をするために必要な情報の提供を充実させる。</p> <p>関係機関との連携を深めることで、進路指導、移行支援の充実を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとに進路の手引きを作成し、職員と保護者に配付する。 ・児童・生徒や保護者が卒業後の生活をイメージできるように、高等部の実習の動画を作成し、授業や個別懇談で紹介できるようにする。 ・適切な時期に児童生徒や保護者や職員に進路に関する情報提供し、共通理解を図りながら取り組む。 ・関係機関との連携を深め、生活基盤の強化とともに児童生徒一人一人に合った卒業後の社会参加の場を決めていける 	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きの作成と配付をすることはできたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、説明会が中止となってしまった学部もあった。来年度は、配付のみでなく説明会の内容も充実させていきたい。 ・高等部の実習の動画を作成し紹介した。今後、さらに障害福祉サービス事業所の動画を増やしていくとともに、職員への周知を行い、有効に活用してもらえものとしていきたい。 ・年に数回、障害福祉サービス事業所のパンフレット閲覧会を行い、進路担当が常駐することで来室した保護者に個別に情報提供をすることができた。職員への情報提供を充実させることで、進路担当でなくても保護者により良い進路情報を伝えることができるようにしていきたい。 ・生徒の置かれている環境に合わせて、児童相談所、グループホーム、相談支援、障害者就業・生活支援センター等と連携を図り、情報共有や役割分担をして協力して支援することができた。

	図る。	ようにする。	
学校関係者評価を実施する 主な評価の視点		① 学校安全対策マニュアルの見直しと周知について（継続） ② 分かりやすく見通しがもてる教育環境について（変更） ③ ICT機器や視覚的教材の活用状況について（継続） ④ ホームページの充実について（継続）	